

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	：話す・聞く能力
書 く	：書く能力
読 む	：読む能力
言 語	：言語についての知識・理解・技能

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年イ	1	一 話し手の伝え方の工夫について、聞き取ることができる。	◇	話・聞	60.0	78.3	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年エ		二 話の中心に気を付けながら、要点を聞き取ることができる。		話・聞	65.0	88.0	
A話すこと・聞くこと (1)3・4年イ		三 聞き手に自分の考えを伝えるために適切な観点を選択することができる。	◇	話・聞	60.0	60.8	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(イ)、イ(ウ)	2	一	ア 文脈の中で、誤って使われている漢字を正しく直すことができる。	◇	言 語	60.0	46.6
			イ 漢字を文脈の中で、正しく読むことができる。	◇	言 語	70.0	85.0
			ウ 漢字を文脈の中で、正しく読むことができる。	◇	言 語	70.0	78.3
			エ 文脈の中で、誤って使われている漢字を正しく直すことができる。	◇	言 語	60.0	52.0
			オ 文脈の中で、誤って使われている漢字を正しく直すことができる。	◇	言 語	60.0	43.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(ア)、イ(キ)	二	ア 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。		言 語	65.0	46.6	
		イ 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読むことができる。		言 語	70.0	64.6	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ア(イ)	三	ことわざの意味を理解し、適切な使い方を指摘することができる。	◇	言 語	75.0	93.3	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)1・2年イ(カ) (1)3・4年(キ)	四	(1) 文の組み立てについて、適切なものを指摘することができる。		言 語	75.0	65.0	
		(2) 文の組み立てについて、適切なものを指摘することができる。		言 語	75.0	87.5	
		(3) 文の組み立てについて、適切なものを指摘することができる。		言 語	75.0	94.6	
B書くこと (1)3・4年 アイウエオ	3	新聞記事を書くための情報を集め、条件に合わせて、まとめた文章を書くことができる。	◇	書 く	50.0	51.6	
C読むこと (1)3・4年エ	4	一 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用することができる。		読 む	60.0	92.0	
C読むこと (1)3・4年オ		二 情報を基にし、日常生活などと結び付けて文章を読み、伝える相手を意識して自分の考えをまとめることができる。	◇	読 む	50.0	60.2	
C読むこと (1)3・4年イ		三 知識や情報を選択したり、表現の仕方に着目したりして文章を読み、伝え方の工夫について自分の意見をもつことができる。	◇	読 む	60.0	74.8	
C読むこと (1)3・4年ウ	5	一 場面と場面を関係付けながら、登場人物について叙述を基に想像して読み、ふさわしい表現を書き抜くことができる。	◇	読 む	60.0	45.0	
C読むこと (1)3・4年エ		(1) 目的や必要に応じて、文章の細かい点に注意しながら読み、事例となる表現を言い換えることができる。	◇	読 む	50.0	57.8	
C読むこと (1)3・4年オ	(2)	国語辞典の意味と叙述を基に、「はずかしがり屋」と「てれ屋」の異同について、立場と理由をはっきりさせ、自分の考えをまとめることができる。	◇	読 む	45.0	27.4	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	話し手の伝え方の工夫	60.0	76.5	76.6	75.2	77.9	74.9	77.9	80.9	
	二	話の中心、要点の聞き取り	65.0	87.3	87.3	87.6	88.6	89.6	90.3	86.8	
	三	自分の考えを伝えるための観点	60.0	61.5	61.5	61.2	59.6	61.9	65.9	54.0	
2	一	ア	文脈に沿った同音異義語の使い分け (漢字の書き)「以外」と「意外」	60.0	45.1	44.9	48.8	43.7	43.3	52.5	39.4
		イ	文脈に沿った同音異義語の使い分け (漢字の読み)「感心」と「関心」	70.0	83.9	83.8	86.8	78.3	81.1	77.9	75.8
		ウ	文脈に沿った同音異義語の使い分け (漢字の読み)「計る」と「測る」等	70.0	78.0	77.7	83.5	76.9	79.6	76.0	74.8
		エ	文脈に沿った同音異義語の使い分け (漢字の書き)「上げる」と「挙げる」	60.0	51.4	50.8	62.0	53.0	52.0	57.6	51.6
		オ	文脈に沿った同音異義語の使い分け (漢字の書き)「氏名」と「指名」	60.0	40.8	40.6	44.6	50.4	48.8	58.1	47.9
	二	ア	ローマ字の書き(濁音、撥音) 「黒板」	65.0	47.7	47.0	59.5	51.5	52.5	60.8	45.5
		イ	ローマ字の読み(拗音、長音) 「Kyoukasyo」	70.0	64.3	63.8	75.2	67.2	67.7	73.7	63.3
	三	ことわざの意味 (場面に合った使い方)	75.0	93.1	93.1	93.4	92.7	90.3	94.9	93.9	
	四	(1)	主語と述語の関係 (何が(は)どんなだ。)	75.0	64.3	63.8	72.7	65.8	61.9	71.0	66.7
		(2)	主語と述語の関係 (何が(は)どうする。)	75.0	86.1	86.3	82.6	88.6	87.6	93.1	87.3
		(3)	主語と述語の関係 (何が(は)ある・いる。)	75.0	94.1	93.9	97.5	96.5	96.3	96.8	96.6
	3		目的に応じた新聞記事のまとめ (複数の資料を基にした考え)	50.0	52.0	52.9	35.5	53.0	48.5	58.5	54.5
4	一	目的に応じた語句の引用	60.0	91.5	91.3	95.0	92.5	92.0	93.1	92.7	
	二	文章を読んで考えたことのまとめ	50.0	60.1	60.6	51.2	62.2	65.7	67.3	56.0	
	三	中心となる語や文の把握(目的に応じた事実と意見の把握)	60.0	75.0	74.9	76.0	72.5	71.1	71.4	74.3	
5	一	叙述を基にした人物像の想像	60.0	45.7	46.2	37.2	44.8	45.0	53.5	40.1	
	二	(1)	叙述を基にした人物の行動の想像	50.0	60.8	61.1	55.4	57.3	52.7	66.8	56.7
		(2)	文章を読んで考えたことのまとめ	45.0	26.6	27.0	19.0	25.3	19.9	32.3	26.9
教科全体(全小問の総正答数÷全小問の総解答数)			62.6	66.0	66.0	66.7	66.6	65.8	70.9	65.0	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
78.6	79.0	74.7	80.5	78.6	78.6	80.1	77.1	78.4	77.7	77.1	80.2	79.8	80.0	79.1	78.3
88.1	88.9	88.9	85.2	85.5	88.2	88.1	89.5	87.6	88.0	89.4	82.6	88.3	88.9	86.3	88.0
56.0	57.3	58.5	56.7	45.0	63.4	66.3	66.1	60.3	58.3	61.0	47.9	63.3	63.5	62.4	60.8
48.5	50.4	48.6	44.3	41.4	46.3	51.1	45.3	43.8	40.1	41.1	36.4	49.8	49.9	49.3	46.6
90.9	91.3	95.3	88.1	86.4	83.6	82.2	84.7	83.8	89.9	91.3	84.3	84.0	84.0	83.7	85.0
82.2	83.3	83.4	80.5	76.4	78.0	80.3	78.9	76.2	86.6	87.7	82.6	73.9	74.0	73.5	78.3
58.5	56.7	63.2	65.2	56.4	48.1	49.2	47.6	47.6	59.3	58.4	62.8	47.4	49.3	40.2	52.0
44.1	43.8	43.9	42.4	48.2	42.3	43.2	37.1	44.3	42.4	44.2	35.5	42.7	45.2	33.0	43.3
46.2	44.6	56.9	44.8	44.5	47.6	50.8	47.9	45.4	41.7	43.3	35.5	44.0	43.1	47.4	46.6
65.3	66.8	62.1	65.2	60.5	64.3	63.1	65.3	64.5	63.5	64.5	59.5	63.7	63.5	64.3	64.6
93.2	93.4	93.3	94.3	90.9	92.1	91.5	92.9	92.0	93.7	93.9	92.6	94.4	94.4	94.6	93.3
64.7	66.9	54.9	62.4	65.5	62.3	63.8	63.4	60.8	64.2	65.6	58.7	67.8	67.6	68.5	65.0
87.0	87.3	87.4	86.7	85.0	87.3	88.1	85.5	87.6	90.1	90.7	87.6	88.4	88.1	89.3	87.5
94.9	95.9	94.5	95.2	89.5	94.3	94.5	91.1	95.8	94.3	94.8	92.6	94.2	93.8	95.7	94.6
56.2	54.9	61.3	52.4	61.8	50.9	57.0	43.4	50.8	48.0	48.3	47.1	48.3	49.5	43.3	51.6
92.0	91.8	92.1	94.8	90.0	92.9	93.9	92.6	92.4	90.6	90.7	90.1	92.0	91.7	93.0	92.0
60.5	62.9	65.2	52.4	49.5	58.1	59.3	55.8	58.6	53.7	53.9	52.9	62.4	63.7	57.4	60.2
76.3	76.7	79.1	74.8	72.3	74.7	75.0	72.1	75.8	77.4	77.3	77.7	74.0	74.3	73.0	74.8
43.8	46.4	45.5	40.5	30.5	45.9	46.4	42.6	47.2	43.6	45.5	36.4	45.1	45.9	42.0	45.0
57.4	60.0	58.1	45.7	53.2	55.0	57.2	58.7	51.7	53.5	56.5	42.1	58.4	59.4	54.3	57.8
30.3	31.6	26.9	31.0	26.8	24.1	28.2	18.9	24.1	22.6	23.2	20.7	30.2	30.9	27.4	27.4
67.4	68.1	68.3	65.9	63.7	65.6	67.1	64.6	65.2	65.7	66.6	62.2	66.3	66.7	64.7	66.3

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	①二		75.7	61.7
書くこと	1			51.6	50.0
読むこと	6	④一、三	⑤一、二(2)	59.5	54.2
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	11	②一イ、一ウ、 三、四(2)、 四(3)	②一ア、一エ、 一オ、二ア	68.8	68.6

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す・ 聞く能力	3	①二		75.7	61.7
書く能力	1			51.6	50.0
読む能力	6	④一、三	⑤一、二(2)	59.5	54.2
言語につい ての知識・ 理解・技能	11	②一イ、一ウ、 三、四(2)、 四(3)	②一ア、一エ、 一オ、二ア	68.8	68.6

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
① 三	60.8	60.0	エ(15.5)、イ(14.0)、ア(12.0)、無答(0)
② 一オ	43.3	60.0	しめい(51.5)、無答(4.0)
② 二ア	46.6	65.0	「ば」の誤表記(29.0)、無答(7.0)、「ん」の誤表記(6.5)
② 四(1)	65.0	75.0	イ(28.5)、ア(1.5)、無答(0.5)
③	51.6	50.0	条件1《似ていること・違うこと》不備(14.5)、事実以外について書いている(11.0)、無答(6.0)、条件2《続きの文章》不備(5.5)、誤字脱字(5.5)、条件3《字数》不備(3.5)
④ 二	60.2	50.0	朝ごはんのよさ(12.5)、「朝ごはんを食べよう」等の呼びかけ(10.0)、無答(8.0)
⑤ 一	45.0	60.0	無答(20.5)、正答である人物の姿ではなく言動を取り上げている(16.0)、人物以外の事物を取り上げている(12.0)、正答ではない人物の姿・言動を取り上げている(4.5)
⑤ 二(2)	27.4	45.0	条件2が不備(条件1は満たしている)(40.5)、無答(21.0)、条件1が不備(8.5)、条件3が不備(条件1と2は満たしている)(0.2)

- 誤答の原因として、①三では、誤答が正答以外の三つの選択肢に分散していることから、「当てはまらないもの」を選択する問いであることを確認していなかったことや、「当てはまらない」観点の内容として「できるだけ数多く」が該当することを捉え切れなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、②一オでは、読みである「しめい」と記述している誤答が多かったことから「氏名」と「指名」の意味の違いを理解し、文脈に合った使い方ができなかったことが考えられる。

- 誤答の原因として、[2]二アでは、「ば (ba)」のローマ字表記を、「だ (da)」「ぱ (pa)」「が (ga)」とした誤答が多かったことから、濁音の表記が定着していないことが考えられる。また、「ん」の表記として「nn」と表している誤答が多く見られた。
- 誤答の原因として、[2]四(1)では、イの「なにが (は) なんだ」の誤答が多いことから、「様子を表すことば」の理解が定着していないことが考えられる。
- 誤答の原因として、[3]では、似ていることと違うことの両方について書かれていない誤答や、グラフから読み取れること以外を記述している誤答が多かったことから、複数の資料を関連付けた読み取りができなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[4]二では、アドバイスとして「朝ごはんのよさ」や単なる呼びかけを記述する解答が多かったことから、あきこさんとひろしさんの話を基に保健便り[B]の目的や意図を読み取ることができなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[5]一では、正答である人物以外に着目したり、全く着目できなかったり(無答)した解答が合わせて40%近くあることから、根拠を基に人物の特徴を見付け出す読み取りに慣れていなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[5]二(2)では、条件2の不備が40%以上あったことから、複数の資料(国語辞典と作品の叙述)の要点を読み取り、精査、解釈した上で、自分の考えに生かせなかったことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の一つ目として、「話すこと・聞くこと」、「話す・聞く能力」の話すことにおいては、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話したり、丁寧な言葉を用いる等、適切な言葉遣いで話したりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、同学年や異学年、全校児童や学校外の人々などを対象とした、多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定し、分かりやすく伝えるための話し方について指導することが大切である。なお、5・6年生で指導する際には、目的や意図に応じて、伝えたい事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことが指導事項となる。

「活用」に関する問題の課題としては、学級全体等に対してまとまった発表をするときには、発表原稿を書き、聞き手によく理解されるよう、表現の適切さなどについて確かめたり工夫したりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、筋道を立てて話す能力や話の中心に気を付けて聞く能力を身に付けさせるために、「書くこと」の「推敲」の指導(活動)とも関連させた言語活動を設定し、分かりやすく伝えるための話し手(書き手)としての考えの明確さや表現の仕方についても見直させることが大切である。

指導例

事柄が分かりやすく伝わるよう、表現の適切さを見直す力を高める指導
～单元名「将来やってみたい仕事について発表しよう」(第4学年)～

【指導の流れ】

1 学習の見通しをもたせ、発表の準備をさせる。

学習活動① 身の回りにあるいろいろな仕事について、見たり聞いたり体験したりしたことを出し合い、出し合った仕事の魅力や興味について話し合う。

学習活動② 学習活動①の話合いを基に、関心のあることや伝えたいことなどから話題を決めて、発表メモに整理する。また、取材した内容や調べた事柄などを加えて、発表原稿を作る。

相手に分かりやすく伝えるために大切なことは、次のことでしたね。

- ・話の構成を工夫する
- ・丁寧な言葉で適切な言葉遣いをする
- ・例を示しながら説明する
- ・聞き手の立場になって分かりやすさを考える

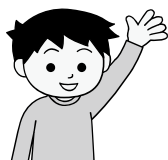


ポイント

- ・具体的な相手や目的をイメージできるようにし、発表に向けての関心・意欲を高めさせる。
- ・相手や目的に応じて、伝えたい事柄が分かりやすく伝わるようにするために、話し手と聞き手の両方の立場から表現の適切さについて考えさせる。

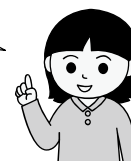
2 発表会を開き、お互いの工夫点について交流させる。

学習活動① 班の中でリハーサルを行い、伝えたい事柄の分かりやすさ・伝わりやすさについて助言し合う。



やってみたい仕事を、初めと最後に繰り返しているのが分かりやすいね。

理由を話すときには、必要に応じて例を示すと相手に伝わりやすいよ。



学習活動② 学級全体で発表会を開き、話し手の構成や表現の仕方の工夫について意見を出し合い、本単元の学習を振り返る。

ポイント

- ・話し手の工夫点を捉えながら聞き、話し手と聞き手とがお互いに補完し合う交流活動にすることで、効果的な情報の伝達ができることを児童に実感させる。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の二つ目として、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字やローマ字を正しく読み、書く力、文や文章の中で語彙を増やしていく力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、コンピューターへのキーボード入力等によるローマ字の活用や、国語辞典や漢字辞典の活用を国語科の中だけではなく、他教科や日常生活の中で関連付けながら指導していくことが大切である。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の三つ目として、「書くこと」、「書く能力」においては、複数の資料を読み取り、それらを関連付け、条件に合わせて書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、必要な資料を収集する、収集した資料やデータを読み解く、複数の資料を関連付ける、全体を通して考えたことをまとめる、新聞やポスター、文章等で表現する等の力の育成が必要である。なお、このことは「活用」に関する問題の課題及び今後の指導とも共通している内容である。

指導例

目的に応じ複数の資料を関連付け、自分の考えを書く力を付けるための指導
～単元名「ポスターで伝えよう」(第5学年)～

【指導の流れ】

1 学習の見通しをもたせる。

学習活動

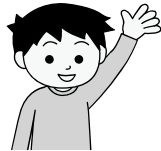
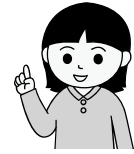
図書室の利用人数を増やすためのポスターの内容について話し合う。

- ・図書室の「学年ごとの月別利用人数」、「希望する本のジャンル」、「新刊紹介」の三つのデータを読み取り、関連付けていく。



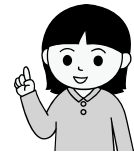
三つのデータから分かることについて、話し合ってみましょう。

確かに、10月と11月では、11月の利用人数が減っているわ。それから、2年生が一番多く利用し、4年生が一番少ないわね。



4年生が希望する本のジャンルのグラフを見ると、科学についての本を希望する人が多いよ。新刊の中から、科学についての本の紹介をすると、図書室を利用する人が増えるんじゃないかな。

他の学年にも、もっと図書室を利用してほしいから、希望する本と新刊のデータから分かることをポスターにするといいんじゃないかしら。



ポイント

- ・ポスターを作る目的意識、相手意識をもたせる。
- ・図書室の「学年ごとの月別利用人数」、「希望する本のジャンル」、「新刊紹介」の三つのデータから分かることについて話し合わせ、その中から条件を導き出させる。
- ・意見を交流する中でさまざまな観点到に気付かせる。

2 ポスターを作らせる。

学習活動

ポスターに必ず書くことを決める（条件の設定）。

- ・利用を呼びかける言葉（標語等）
- ・新刊の紹介 等

3 作ったポスターについて、交流させる。

学習活動

よりよいポスターにするために、次のような観点で見直しをする。

- ・条件を満たしているか。
- ・図書室を利用したくなるようなポスターになっているか。
- ・レイアウトや見やすさはどうか。

4 交流により修正したポスターを校内に掲示する。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の四つ目として、「読むこと」、「読む能力」の説明的な文章については、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読む力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているのかを捉えさせることが大切である。

「活用」に関する課題の課題としては、自分のもっている知識や情報、日常生活等と結び付けて文章を読み、気付いたことをまとめる力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、言葉や文章から読み取れることを自分の知識や経験と結び付けて考え、まとめさせる言語活動を設定することが大切である。なお、その際、複数の資料を使ったり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」と関連させて指導したりすることも大切である。

指導例

目的に応じて内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を高める指導
～単元名「〇〇説明文をつくらう」（第4学年）～

【指導の流れ】

1 社会科や算数科、理科等の学習と関連付けて、その学習内容に関する説明文をつくる学習の見通しをもたせる。

学習活動 （教師が社会科や算数科、理科等の学習から適宜テーマを決めて）教師が作成した「〇〇説明文」を読み、説明文を書くことに興味をもつ。



みんなも〇〇についての説明文を作って、□年生に教えましょう。

分かりやすい説明文だな。どうすれば分かりやすくなるのかな。



ポイント

・児童の課題意識をかき立て、その解決のために教材文（教科書の説明的な文章等）を読んでいく、という目的意識や必要感をもたせる。

※教師作成の説明文を「分かりにくい」文章にして、「分かりやすさ」とは何かという関心をもたせる方法もある。

2 教材文（教科書の説明的な文章等）で段落相互の関係図をつくらせる。

学習活動① 題名と「おわり」だけの教材文を読み、「はじめ」「なか」に書かれていることを予想してから教材文全体を読む（確かめる）。

ポイント

・題名と「おわり」から、この教材文（教科書の説明的な文章等）の話題は何かを捉えさせる。

・捉えた話題と「はじめ」「なか」が整合していることに気付かせる。

学習活動② 各段落に小見出しを付けてカード化し、どのように「おわり」につながっていくか、関係図に表して考える。



□段落と△段落はどちらも〇〇についてのことだから、まとめられるね。

問い→答え→新たな問い→答え…とつながっていくよ。



学習活動③ グループや学級全体で関係図を検討し合い、段落相互の関係と説明の仕方についてまとめる。

3 教材文（教科書の説明的な文章等）で学んだ説明の仕方を生かし、「〇〇説明文」を完成させる。

学習活動① 自分が説明したい内容の要点を小見出し風書き出し、その並べ方を工夫して「〇〇説明文」の骨格をつくる。

学習活動② カード1枚を一つの段落として文章化し、「〇〇説明文」を完成させる。

学習活動③ 完成した「〇〇説明文」をグループや学級全体で読み合い、分かりやすい説明の仕方が評価し合う。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の五つ目として、「読むこと」、「読む能力」の文学的な文章については、複数の叙述を基に登場人物の人物像を捉える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、登場人物の行動や会話などの叙述を、一つの場面からだけではな

く、作品全体から複数取り出し、それらを基にして考える学習が求められる。複数の叙述を関係付けて登場人物の特徴や性格を押さえることが、人柄を考えて読む学習へつながる。この流れが人物像を捉える学習である。人物像を捉える学習によって、人物の心情が場面の移り変わりに関連付けられ、作品全体を読む力が高まっていく。なお、人物像を捉える学習は主として第3・4学年であるが、第1・2学年においても人物像の捉えを見据えた学習が求められる。第5・6学年においては、複数の登場人物の人物像とその相互関係を捉える学習を行うこととなる。

「活用」に関する問題の課題としては、複数の資料を基に読み取ったことに対して自分の考えをまとめる力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、複数の資料の内容を目的に応じて押さえつつ、自分の考えを明確にしながらか読む言語活動を設定することが大切である。文章を読んで考え、まとめたことを発表するケースとして、主に話し言葉による交流や書き言葉による交流がある。いずれの場合にも、自分なりの考えをもった上で交流すること、交流によって考えを深め、高めようとする目的意識をもつこと、の2点が大切である。なお、自分の考えの形成には、第1・2学年においては文章の内容と自分の経験とを結び付けることが求められる。第5・6学年においては共通課題と選択課題を設定するなどし、解決のための読み方やまとめた考えを出し合うことが求められる。

指導例

複数の叙述を基に登場人物の人物像を捉える指導

～単元名「人物カルタを基に“人柄交流会”をしよう」(第4学年)～

【指導の流れ】 4学年における「白いぼうし」(作:あまみきみこ)を例とした単元の流れ

1 「白いぼうし」に出てくる登場人物と場面の様子を松井さんを中心に整理させる。



このお話に出てくる登場人物を場面に合わせて整理してみましょう。

「松井さんが出会った人やもの」と「そのときの松井さんの会話や行動」を場面ごとに表に整理してみてください。

松井さんは最初から最後まで登場しますが、ほかにもいろいろな人やものが登場します。



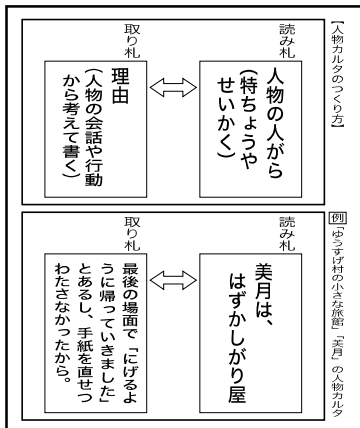
松井さんが出会った人やものごとに、場面が分かれているような気がするわ。四つに分けられるんじゃないかしら。



2 整理した表と本文の叙述を手がかりに人物カルタを作成させる。



人物の特徴や性格のことを人柄と言います。人物の人柄をカルタにして、カルタ遊びをしてみましょう。



カルタの読み札に自分の考えた人柄を書くんですね。そして、取り札にその理由を会話や行動から考えて書くのね…。



まずは「松井さん」のカルタをつくらなきゃ。中心人物だから何枚もつくれそう。



そうね。「女の子」と「ちょうちょ」の特徴も考えられそうよ。なぞなぞのような人物カルタになるかもしれないわ。





松井さんの人物カルタの1枚目は「松井さんは、想像力のある人」にしよう。取り札の理由は、「ひとりでにわらいがこみあげてきたり、『考え考え』したりしているから。」にしよう。



国語辞典で自分が考えた人柄の意味を調べてみると、もっとはつきりすると思います。

国語辞典には想像力のことが「頭の中に思いうかべる能力」とあるから、松井さんの人柄に当てはまると思う。



3 人物カルタをもとに“人柄交流会”を開き、各自の考えた人柄について、人物ごとに話し合いをさせる。

[例 グループでの“人柄交流会”の進め方]

- 司 会：この物語の登場人物は、それぞれどんな人だと思いますか。人物カルタと人物の会話や行動を手がかりにして話し合しましょう。まず、松井さんについてはどうですか。
- A：ぼくは、松井さんを「想像力のある人」だと思いました。「ひとりでにわらいがこみあげてきたり、『考え考え』したりしている」のところからそう思いました。
- B：わたしは、「心配りのある人」だと思いました。帽子からちょうちよが逃げたとき、夏みかんを置いて飛ばないように石で押さえたところからそう思いました。
- 司 会：Aさんの考えた人柄は、Bさんと似ているところがありますか。
- A：「この子は、どんなにがっかりするだろう。」と思ったから心配りができたんだと思います。だから、「心配りのある人」と「想像力のある人」はつながっていると思います。
- (以下、話し合いが続く)

キ まとめ

内容・領域についての学習状況及び評価の観点からみた状況は、「話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）」においては、概ね良好である。しかし、「読むこと（読む能力）」では、文学的文章を読むことにおいて、人物像についての自分なりの考えの形成が十分とは言えない。また、「書くこと（書く能力）」では、取材と記述において、目的に応じた情報の取捨選択と条件への適合が十分とは言えない。

今後、「読むこと」の文学的文章の指導においては、人物像を作品全体から自分なりに捉える指導を行うようにしたい。また、人物像を捉えることの指導においては、一つの場面からではなく複数の場面から人物の言動を拾い出し、場面の移り変わりに関連付ける授業を行うようにしたい。「書くこと」の指導においては、明確な目的意識をもたせた取材、記述をする指導を行うようにしたい。また、目的意識をもたせた取材、記述の指導においては、身近なことから必要感のある課題を設定し、課題から条件を導き出す授業を行うようにしたい。

「活用」に関する問題についての状況は、複数の資料の読解において、いくつかの情報を目的や意図に応じて関連付けることが十分とは言えない。また、関連付けたことから考えられることを整理して表現することが十分ではない。

今後は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各内容・領域の指導においては、次のような授業を行うようにしたい。

- 明確な目的や意図を含んだ課題を設定する授業
- 複数の資料を用いて課題解決に向かう授業
- 根拠となる資料とそこから分かることを示しながら自分なりの考えを表現する授業